令和２年度 自己評価計画書

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
1	計画的に授業及び生活に係る規律の指導を徹底し、生徒の自己調整力を高めることにより、自立した学習習慣の確立を図る。	①	本校の授業心得を周知し、授業規律の徹底を図るため、校内外の挨拶を積極的に励行する。また朝礼や授業開始時にロッカーの上や机の周りを点検し、乱れがあれば片付けさせる。	学年 教務 生徒指導 生徒会指導 保健管理	挨拶は概ね良好であるが明るさと覇気に欠ける生徒が目立つ。 教室・実習棟は整理された学習環境であると生徒および教員の９割が感じている。今後も専門高校教育の場として整理整頓の意識を強化し、きめ細かく指導する必要がある。	【成果指標】 生徒および教員が自ら積極的な挨拶を励行している。	毎日、自ら積極的に挨拶することを心がけ、実行している生徒および教員の割合が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 （７月と１２月に生徒・教員アンケートを実施）	教員	生徒	
						【満足度指標】 学びの場および指導の場は整理整頓され、学習に相応しい環境となっている。	私たちの教室は整理整頓されており、学習に相応しい環境であると感じる生徒および教員の割合が A　９５％以上 B　８５％以上 C　７５％以上 D　７５％未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 （７月と１２月に生徒・教員アンケートを実施）	教員	生徒	
		②	いじめや不登校の早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有する。また必要に応じて会を持ち、組織的な対応を行う。	教育相談 生徒指導 学年	軽率な行動や思いやりに欠ける言動を行いながらいじめと認識していない生徒が年々増加している。 学校としていじめや不登校に対する未然防止と早期発見・対応に重点をおいている。	【努力指標】 生徒に寄り添い、担任や関係職員と情報交換を図り、いじめや不登校の未然防止・早期発見に取り組んでいる。	教職員の情報交換により、問題の未然防止や早期発見に努めている教員の割合が A　９０％以上 B　８５％以上 C　８０％以上 D　８０％未満	C・Dの場合は、新たな指導方法を検討、実施する。 （7月と１２月に教員アンケートを実施）	教員		
		③	全校集会等を活用し、定期的な指導を通して規範意識の高揚と校則の遵守を身につけさせる。	生徒指導 学年	「容儀」「携帯電話」や「違反行動」について、規範意識が薄い。規則の必要性を説き、粘り強い指導が必要な現状である。	【成果指標】 生徒自身が校則を主体的に守る意識が向上し、指導件数が昨年度より減少した。	昨年度と比べ、指導件数が A　２０％以上減少 B　１０％以上減少 C　１０％未満減少 D　増加した	生徒指導課の指導件数で判断する。 （昨年度比較）	教員		

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
2	「主体的・対話的で深い学び」の実践をとおして、活用できる知識とスキルを育み、地域に期待される人材を育成する。	①	能動的学習の視点を取り入れた授業やＩＣＴを活用した授業に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。	教務	多くの教員にiPadが配布されたが、あまり活用されていない教科・科目がある。	【努力指標】 生徒が主体的に参加する授業を目指し、授業改善に取り組んでいる。	ＩＣＴの活用やアクティブ・ラーニング等の手法を授業に取り入れている教員の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、、授業改善の状況、指導法を検討する。 （７月と１２月に教員アンケートを実施）	教員		
		②	質問に対して、根拠や理由を示して答えさせることで深い学びにつなげる。	各教科	学習内容に関わることで、質問された際、論理的根拠に基づいた説明や意見を苦手とする生徒が多い。	【満足度指標】 根拠や理由を示して答えることで、生徒自身が学習内容について力がついたと感じている。	学習内容について力がついたと感じている生徒および教員の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、授業改善の状況、指導法を検討する。 （７月と１２月に生徒・教員アンケートを実施）	教員	生徒	
		③	インターンシップおよび長期企業実習（デュアルシステム）を通して、主体的なコミュニケーションで問題を解決する能力を高める。	進路指導 工業科 商業科	コミュニケーションをとりながら、学びを深めていくことや分からないところを質問することに苦手な生徒が目立つ。	【満足度指標】 実習を通して、周囲と積極的にコミュニケーションをとりながら主体的に行動できたと感じている。	インターンシップ・デュアルシステムは、主体的なコミュニケーション能力の向上に役だったと感じている生徒・保護者の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、対策を検討する。 （１２月に生徒・保護者アンケートを実施）		生徒	保護者
		④	生徒手帳や資格カレンダーを活用し、計画的、主体的に資格取得に取り組む力を育成する。	教務 工業科 商業科	各種別の検定合格率は全体的に低下している。また、上級試験に挑戦する生徒も減少している。自主的、主体的な学習を促すことが望まれる。	【努力指標】 生徒が主体的に取り組むよう、授業改善から取り組み、資格取得に向けて各自に目標を設定させる。	資格取得に向けて計画的に取り組んだと思う生徒・保護者の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、対策を検討する。 （１２月に生徒・保護者アンケートを実施）		生徒	保護者

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
3	学校の教育活動全体をとおして、将来の産業人として求められる人間力を磨き、他を思いやる人間性を涵養する。	①	スキルアップタイムやＩＣＴを活用した学習を通して、将来の産業人として必要な基礎学力の定着を図る。	教務	義務教育で身につけておくべき基礎学力が定着しておらず、学習意欲に欠ける生徒もいる。学力不足の生徒に対する学習指導の工夫が急務である。	【成果指標】 国語、数学、英語の基礎的内容を理解し、以前より基礎学力が向上している。	基礎的な内容について学力が向上したと感じる生徒の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８５％以上 Ｃ　８０％以上 Ｄ　８０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、対策を検討する。 （７月と１２月に生徒アンケートを実施）		生徒	
		②	生徒一人ひとりの生徒会活動への参加意識を高め、行事を通して人間的成長を図る。	生徒会指導	生徒会行事には積極的に参加する生徒と消極的な生徒の２極化が見られる。	【満足度指標】 自らの役割を見つけ積極的な行動により、責任を果たすことができている。	生徒会行事（聖実祭、ホーム対抗行事）で自ら積極的に取り組んだ生徒の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、行事の運営方法を検討する。 （１２月に生徒アンケートを実施）		生徒	
		③	ボランティア活動に積極的に参加することで、奉仕の精神や郷土愛を育む。	生徒会指導	「大実ふれあい隊」を立ち上げ、ボランティア活動の参加を積極的に推進している。 昨年度、生徒の60%が何らかボランティアに参加したが、複数回の参加者は34.3％の状況である。	【成果指標】 地域のボランティア活動に積極的に参加している。	年間ボランティア活動に、2回以上参加した生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、対策を検討する。 （１２月に生徒アンケートを実施）		生徒	
4	地域の学校に対する理解を深めるため、積極的に本校の教育活動を発信する。	①	学校ホームページを活用し、保護者や地域等への情報提供を充実させる。	教頭 教務 総務	昨年度、保護者の76%から学校ホームページについて好評を得たが、学校に対する理解がさらに高まるよう、情報提供のあり方を工夫する。	【満足度指標】 学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく理解できる。	学校ホームページによって、本校の教育活動について、よく理解できると回答した保護者の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	Ｃ・Ｄの場合、提供する情報内容について検討する。 （７月と１２月に保護者アンケートを実施）			保護者

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
5	職員の効率的な働き方と時間外勤務の縮減を推進し、ワーク・ライフ・バランスの改善を目指す。	①	時間管理の意識を高め、日頃から生徒とのコミュニケーションをとる時間を確保することに努める。	学年 生徒会指導 生徒指導 進路指導	教員は、時間管理の意識を保ちながら業務を行っている。	【努力指標】 教員は生徒と向き合う時間を確保するよう努めている。	業務の効率化を意識し、生徒と向き合う時間を確保するよう努めている教員の割合が A　９０％以上 B　８５％以上 C　８０％以上 D　８０％未満	C・Dの場合、対策を検討する。 （７月と１２月に教員アンケートを実施）	教員		
		②	探す無駄、待たされる無駄、やり過ぎる無駄を減らすことに努める。	教務 生徒会指導 生徒指導 進路指導	年度初めの業務の引き継ぎでは、口頭で済ますことが多く、手探りで仕事を進めることが多い。	【努力指標】 次年度の担当者へ引き継ぐことを前提に、メモ等を残しながら仕事をしている。	次年度へ業務を引き継ぐことを前提に置き、メモ等を残しながら仕事をしている教員の割合が A　９０％以上 B　８５％以上 C　８０％以上 D　８０％未満	C・Dの場合、新たな方法を検討、実施する。 （７月と１２月に教員アンケートを実施）	教員		
		③	部活動の休養日はスポーツ科学等の根拠に基づいて設定する。	生徒会指導 各顧問	日々、限られた時間内で効果的な練習やトレーニングを継続している。	【努力指標】 生徒の実態に合わせ休養日を効果的に設定し、部活動の活性化と技術向上を目指している。	効果的な休養日を設定して、毎月の部活動計画を立てている教員の割合が A　９０％以上 B　８５％以上 C　８０％以上 D　８０％未満	C・Dの場合、部活動のあり方を検討する。 （７月と１２月に教員アンケートを実施）	教員		